



台風が近くなってくるとなんだか祭りが近づいてくるような華やかな気持ちになります。それに引き替え地震はいつも突発的でどこまで大きくなるか見通しが立たないから恐ろしいものです。この間の地震では11階にある事務所の本棚が崩壊しました。中の本が左右に繰り返し激しくぶつかって安普請の本棚の左右の板が飛んで中身が全部崩れ落ちました。五十肩の痛みに一ひ一言いつつやっと直したと思ったらまた地震が来た。しかし、今度は補強金物をつけていたので崩壊せずにすんで安心です。地震の直後にメールであちこち連絡をとったが、なんの問題もなく連絡はつながった。これから万一のためにどこでもメールが可能な状態にしてお

かなければいけないかも知れない。場所に制約される生き方はしたくないものだ。

今は少し仕事があるけれども、先のことはまったくわからないから、どこでも行って何でも出来るようにしておきたいのだが、問題は英語が話せない点にあるな。このあいだも、バングラから来た方をを囲んだ講演会に出たが、同時通訳付きなんて言っておきながら「えー、本日の顔ぶれを見ますと通訳はいらないと思いますので、通訳なしでいきます。」なんぞと言われてしまった。みんな質問も何も結構話すのだな。たこつぼをほった中に火縄銃を大事に抱えて潜みながら、空中戦を見上げているような気分だ。それでも、いざとなったらバングラでもどこでも現場監督でも何でも出撃していくつもりだが苦勞しそうなことは目に見えていて、つらい物だ。何たって、学生時代英語で3点という点数をとったことがあるからな。あのころは、そんな物は生涯使うはずないと固く信じていたのだ。今更ながらバカだったと思っている。まーバカはバカだからしょーがないが、バカついでにあのころ花咲いさんを英語でやっどこぞの公会堂に出てバカ踊りをしたことがあった。英語を覚えたのはそれが最初で最後だ。それから何十年、今急に、「うんち」とか「おしっこ」「肥料」などという単語を覚えなければならなくなって本当に苦勞している。今勉強し始めている若い人がいたら言うておけど、勉強しといいた方が良いよ。

そのあとネパールからトレッキングマネージャーの友人が奥さんと子供を連れてやって来て急に会うことになって朝から携帯をかけまくってたくさんの友人達と一緒に会うことが出来た。暑いから遠くへ行きたくないので秋葉原の交通博物館で遊んで買い物をしてから友人が出してくれた車で両国駅のピアホールへ集まって飲んで騒いだ。小学生の子供はまっすぐ育っていて、いい目をしていたが、交通博物館で電車の運転やなにやら魅力的な誘惑の罠にはまってだんだん喜びの内に濁っていくのだろうと、連れて行きながら同情した。こっちはお父さんは日本語で良いが、あとは英語かネパール語なのだ。つい無口になる。言葉を学ぶというのは友人を作る手段なのだと改めて思います。

その時自転車世界一周をした友人が大阪から1才になった赤ちゃんを抱えてやってきてくれて、元気な様子うれしかった。「赤ちゃん直結だからビールが飲めないのよ。」と騒ぎつつ楽しんでいってくれた。あちらはこれからまだまだ隙をねらいつつまたどこぞへ進出していきそうな雰囲気だ。英国の友人も軌道に乗った宿を一度閉めて、夫婦でまた世界にさまよい出ようとしているし、これからの世の中はやっぱり、もっと柔軟に生き生きと生きることが出来るのだと実感しました。